

Ⅲ 総括

今回のオーストラリア、ニュージーランド両国への訪問は、4年後の2019年ラグビーワールドカップ、5年後の2020年オリンピック・パラリンピックに向けて大変参考になる示唆に富んだ視察・海外調査となった。これから各大会を迎えるにあたり、施設等の整備のみならず、スポーツへの考え方から、観光客誘致へのおもてなしの心まで、改めて東京都が進めていく方向性を確認できたと感じている。

2000年のオリンピック・パラリンピック大会から15年が経過したシドニーでは、五輪開催当時にはあまりレガシーを残すことは意識していなかったという。しかし持続可能な発展を目指し、大会後もそれら施設等を無駄にすることなく有効活用してきた結果、大変な繁栄を得ることができた。オーストラリア経済は、五輪開催決定以来20年以上、右肩あがりの成長を続けてきている。

またラグビーワールドカップの2011年の大会開催国で、今回のロンドン大会でオーストラリアとの激戦の上、2大会連続、3回目の優勝を勝ち取ったニュージーランドでは、スポーツのもたらす力の凄さを改めて強く感じることもできた。ラグビーのみならず、セイリングが盛んなオークランドは、「シティ・オブ・セイルズ(帆の街)」と呼ばれるくらい市民がスポーツ・レジャーを楽しんでいる。

今回の海外調査にあたり、我々調査団は、調査項目を決定した後、東京都での状況を比べるため、調査項目ごと、東京都の各局と意見交換を行い、また広尾病院の東京ERの視察も行った。出発の一週間前には、在日本オーストラリア大使館及び在日本ニュージーランド大使館を訪問、両国の近況等についてレクチャーを受け、大使とも意見交換を行った。大変有意義な事前の予習をして現地に望むことができた。

また現地より帰国した我々は、この報告書を作成すると共に、それらの成果について、各所管委員会で事務事業質疑や本会議一般質問、予算調査特別委員会の総括質疑など、様々な場面で都政に反映できるように努めるよう確認している。

今回の視察には、議会事務局はじめ、都関係各局、および現地政府機関等到大変お世話になった。特に東京都と姉妹都市であるニューサウスウェールズ州の上下両院、オークランド市議会、在シドニー日本総領事館、在オークランド日本総領事館、自治体国際化協会シドニー事務所、シドニー大学ロイヤルノースショア病院、NSW州救急救命センター、オークランド観光イベント経済開発会社、株式会社プレントィフローラ、NPO法人ユースホライズンズ、イーデンパークスタジアムなどの関係者の方々には、様々な説明や資料提供を頂いた。これからも、我が国とオーストラリア、ニュージーランドとの友好関係が益々深まるよう微力を尽くしていきたい。